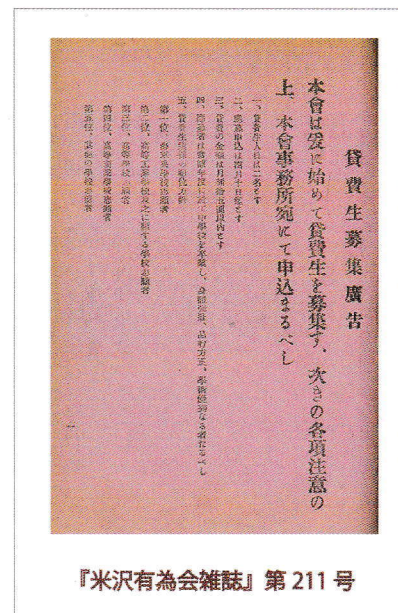


奨学金貸与制度の展開

米沢有為会で奨学金貸与制度を開始したのは、明治44(1911)年のこと。同年3月の『米沢有為会雑誌』第211号には貸費生募集の広告が掲載され、「本会は^{ここ}爰に始めて貸費生を募集す、次きの各項注意の上、本会事務所宛にて申込まるべし」と募っています。5名の応募があり、4月に理事会と臨時評議員会で、3名の受験生に年額100円を貸与することを議決しています。

また、大正15年(1926・昭和元年度)の貸与生の選考では、初めて女性(女子医専生)が選ばれています。



米沢教育会との連携と事業合同

当時の郷土学生支援団体としては、上杉茂憲の主唱で明治18(1885)年設立の米沢教育会(後に財団法人化)や、教育財団興譲館、武官養成会等の貸与があり、互いに独立しながら密接な協力関係にありました。

明治末期には米沢教育会の奨学生選考を有為会が担当し、さらには昭和16(1941)年には米沢教育会が解散したため、有為会にその財産を寄贈し、より強固に育英事業を行っていくことになりました。

